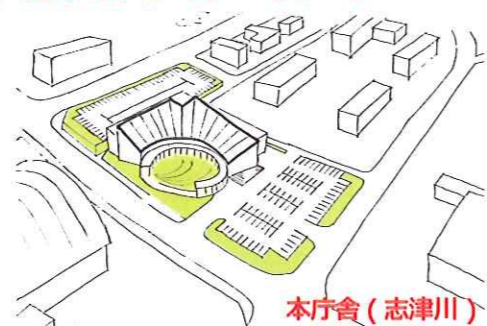


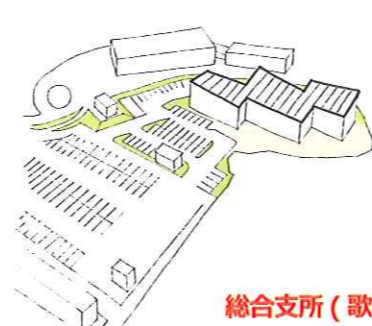
心の拠り所・絆・希望・復興のシンボルとしての庁舎

南三陸の未来へ、希望を表す躍動する2つの大屋根 本庁舎と総合支所

共通するデザイン・モチーフ



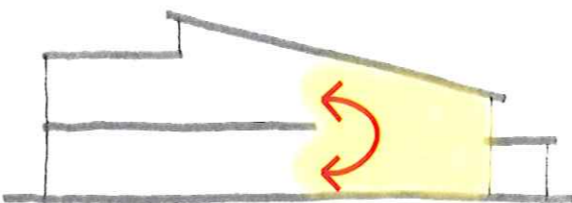
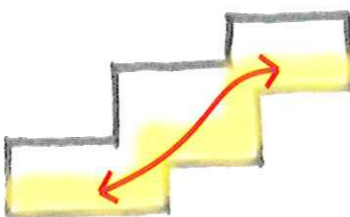
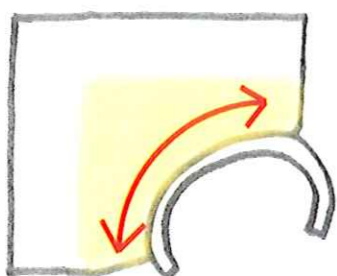
本庁舎 (志津川)



総合支所 (歌津)

わくわくするような大屋根に覆われた連続するオープンな空間

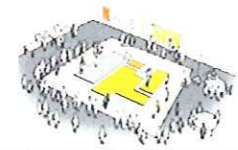
役場機能、町民のアメニティ機能は空間的に連続し、見通しがきき、広場に面したフォワイエ（ロビー）空間に開かれています。上下の関係も吹き抜けにより連続し、この建物の内部は一体化された空間となります。



庁舎づくりに住民が積極的に参加することで南三陸の絆・団結力を深めます

将来、この建物に愛着と親しみを持っていつでもふらりと立ち寄って欲しい。そういう自分の居場所を自分達で作ろう。楽しい仕掛け、設備を皆でアイデアを出し合おう。一役所と将来の利用者（エンドユーザー）、それに設計者が加わる。一テーブルを囲んで設計者が説明するだけでは距離が縮まらない。模型やCG等、みんながこの計画に興味があるツールを用いて、膝を突き合わせて話し合っていて全員が参加できるような仕組みを積極的に考えていきます。

ワークショップを形式ではなく本気でやります



【1/10 模型による市民説明イベント】

＜ワークショップの流れ＞



議会ホールの壁にアピの殻の殻を磨いて、貼りつける。アピの殻は小中学生が磨いた物を持ち寄る。この壁を作った子供達が40、50年後自分達の孫に自慢ができる、愛着を抱いてもらえる。



【製材工場見学のイメージ】

1. 最初は周囲を含んだ全体模型100分の1（4メートルX3メートル）位から始め
2. 基本設計は50分の1（4メートルX3メートル）、
3. 実施設計に入った中に入れるくらいの模型を作りみんなで見え方を考える。
4. 会場に大きな図面を広げる。
5. 体育館のスクリーンにCG透視図を等身大で映し出す。そこで実際の大きさを実感する。
6. そのような議論の積み重ねの中からリーダーとなる人を発掘していく。
7. そのようなグループが開館後も運営に関わる。

安全なコストプランニング（適切な積算計画）・ライフサイクルコストを考慮した計画

現在東北地方を中心に復興事業のために建設費の高騰が続いています。私達は現在、圧倒的に不足している型枠工事を最小限に提案をします。

1. 適材適所の構造材
 2. 型枠工事を最小限とした計画
 3. コンパクトな形にまとめる
 4. 部材を工場でプレ加工し工期短縮
 5. 必要以上に仕上げ・天井を貼らない
- 維持管理のしやすさ、組織の変更・移動に対応しやすいフレキシブルな空間、省エネ、耐久性等に考慮しながら、ライフサイクルコストを考慮した計画を行います。

現在、建設物価が上昇し不調が多発しています。私達の事務所は27年、専ら公共建築に携わって参りました。コストプランニングにはいつもシビアに取り組んでいます。

1. 基本設計着手前に概算を行う
 2. 基本設計途中で概算を行う。それらを元に設計の修整を早い段階から行っていく。
 3. 基本設計修了と同時に積算を行う。
 4. 実施設計途中で積算を行う。
 5. それらを元にメーカーなどにも情報を得ながら実施設計終了時までに予算を抑えきる。
- 積算担当者は全国の公共工事を50年に渡って担当してきた経験十分な積算の専門家です。

構造計画 地場産・南三陸杉材を用いた木造大空間 - 開放的なオープン空間

・適材適所の混構造（木造+RC+S）

スパンの大きい梁は鉄骨に、柱は小径木（120角）×4本の組柱とし、開放的なオープン空間を作ります。木材・鉄骨は工場加工で現場は建方のみ、床RCはデッキプレートを使い、現場での作業を省力化します。型枠が高騰しているため、型枠工事を最小限にする計画とします。

・免震構造の採用（アイソレーター）

鉄骨+木造により建物は軽量化されるため、小型の免震装置でも十分な効果が得られます。

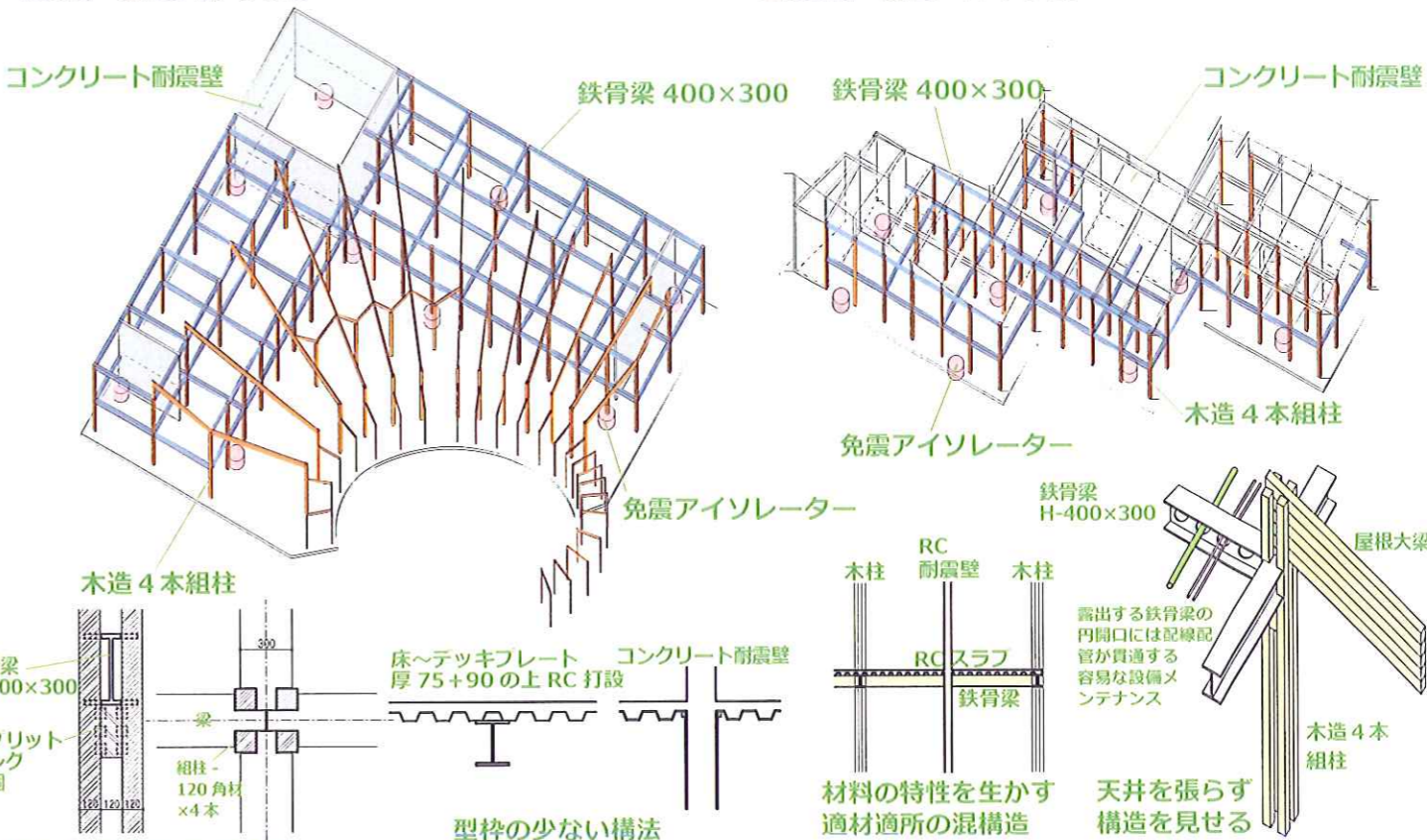
・小径材（流通材）でユニークな構造・空間をつくる

- 木造法規に対する考え方 -
別棟解釈で2階建て木造庁舎を実現。強い耐震性能を持った木造建築を可能にします。

- ・耐火構造のコア部分を除く床 3000m²以下。
- ・2層（二階建て）の建築
- ・高さ13m、軒先9m以下。

本庁舎 構造ダイアグラム

総合支所 構造ダイアグラム



木造大空間の実績 私たちのチームによる木造や木質空間の設計事例

全国各地で地場産材を生かした大規模木造公共建築に携わってきた経験を生かし、それとは全く異なる美里独自の斬新でユニークな木造空間をつくります

- T町文化センター** 木をふんだんに用いた600席のコンサートホール。音質的に優れ、著名な音楽家のコンサート・録音から地域の映画会まで幅広く町民に活用されている。
- F市多機能アリーナ** 引っぱり強い木の特性を生かし、厚さ200mmの木板で懸垂面をもった屋根を構築。1,200席のコンサートホールと体育館の複合施設。（実施設計完了）
- A町総合体育館** 厚さ200mmの集成材木板構造。木材には構造、天井仕上、断熱材、吸音材と一石四鳥の効果をもたせコストダウンを図っている。
- Y博物館** 有名なスギ材を利用し、400角の無垢の柱を中心に、日本の伝統的な仕口や納まりを生かし、現代的な空間を表現している。
- K村役場庁舎** 豪雪地域の役場庁舎。今回の提案と同様にRCに耐震を負担させることで細い木造柱とし、使いやすいつつ執務空間を実現している。
- F県研究施設** 豪雪地域の研究施設。日本の伝統的な木造空間に倣い、斜材材を使わずに比較的大きな空間を木造で実現。ロングスパンに対してはスチールのデンシオン材で補強している。

設備計画 エネルギーの自給自足を目指します、バイオマスも積極的に利用します

防災の自給自足

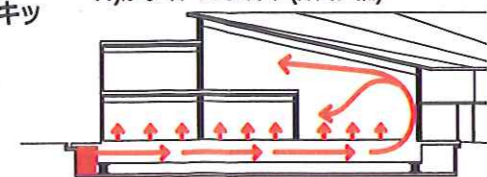
電気を使わないことを訓練する日を提案します。太陽光、ジェネレーター（発電機）、雨水利用により非常時でも外部からのエネルギーに依存せず建物を機能させることを計画します。年に数回、外部の電気・水などに頼らない日を設定し、普段から機械の操作・運転・維持などもスムーズにいく訓練を行い、使い慣れやすくしておきます。備えあれば憂い無しです。

エネルギーの地産地消

- 消費エネルギーの極小化
- *1階には床暖房
- *ルーフ/吹き出し側のエネルギー設備
- *温熱環境グラデーション
- *在区域限定冷暖房
- *非常時対応設備キット
- *高い安全性・安定性
- *運転と保守が容易

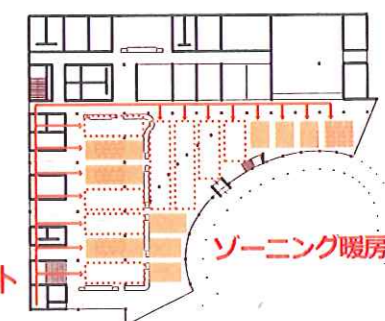
吹き抜けでも暖かな床暖房を提案します

床下を通る暖気は床を温めた後、回廊側のガラスの下部から吹き上げられ冷放射、結露を防ぎます。ドラフト（吹き出し風）やノイズ（吹き出し騒音）がなく、快適です。（頭寒足熱）



この床暖房方式は私達はいくつかのプロジェクト（札幌・福島等）で実現し、好評を得ています。

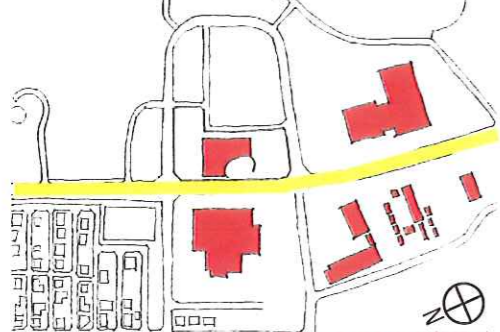
吹き出しダンパーの調節により、ゾーンごとの冷暖房が可能で省エネにも有効です。



ゾーニング暖房

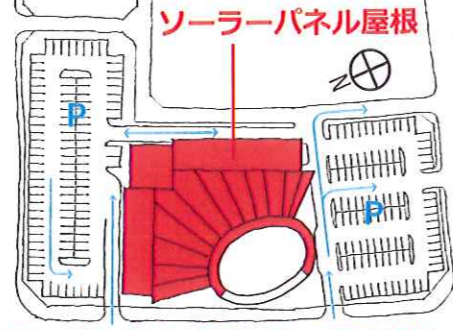
心の拠り所・絆・希望・復興のシンボルとしての本庁舎

周辺との関係



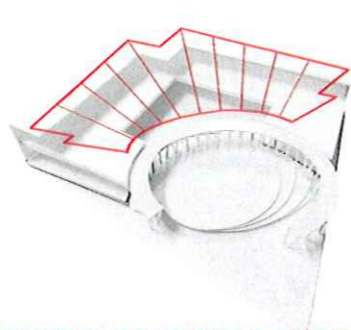
周辺には南北に走る大通りを中心に主要な公共施設が並んでいます。本庁舎はその中心的な施設となります。大通りに開いた計画とします。

配置・動線計画



敷地の中央に本庁舎を配置します。不整形な敷地の左右に2つの駐車場（公用車用・来庁者用）を配置します。庁舎の手前に大通りに開いた大きな広場を計画します。

吹抜けを持った2層構成



全体が見通せる空間を作ります。吹抜けにより上下も緩やかに繋がります。木造のひつこの大屋根の下で円滑なコミュニケーションがうまれます。

内の広場

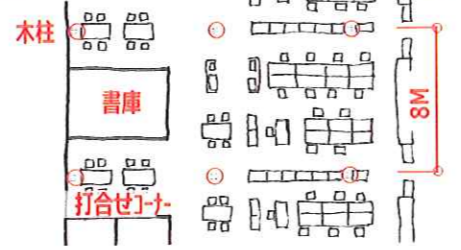
アビ広場を囲む多目的交流空間は内部化された広場です。寒い冬でも雨天の日でも光あふれる賑わいのある広場となります。カフェ、情報コーナー、ATM、売店、コンビニ、託児コーナー、PRスペースなどが配置されます。用事のない人でもふらりと立ち寄りたくなるような魅力ある居間のような空間を目指します。アビの広場とも連続し屋外イベントにも連動します。

議会ホールの壁に描かれたアビの殻の光る内側を覆って一面貼り付ける。アビの殻は小中学生が集めた物を持ち寄る。大人も一緒に参加する。世界にも珍しいアビの壁ができ全国にアビの町南三陸を発信できる。この壁を作った子供達が4,0,5,0年後自分達の顔に自慢ができる。つまり一つと愛を抱いても6える。

アビ壁

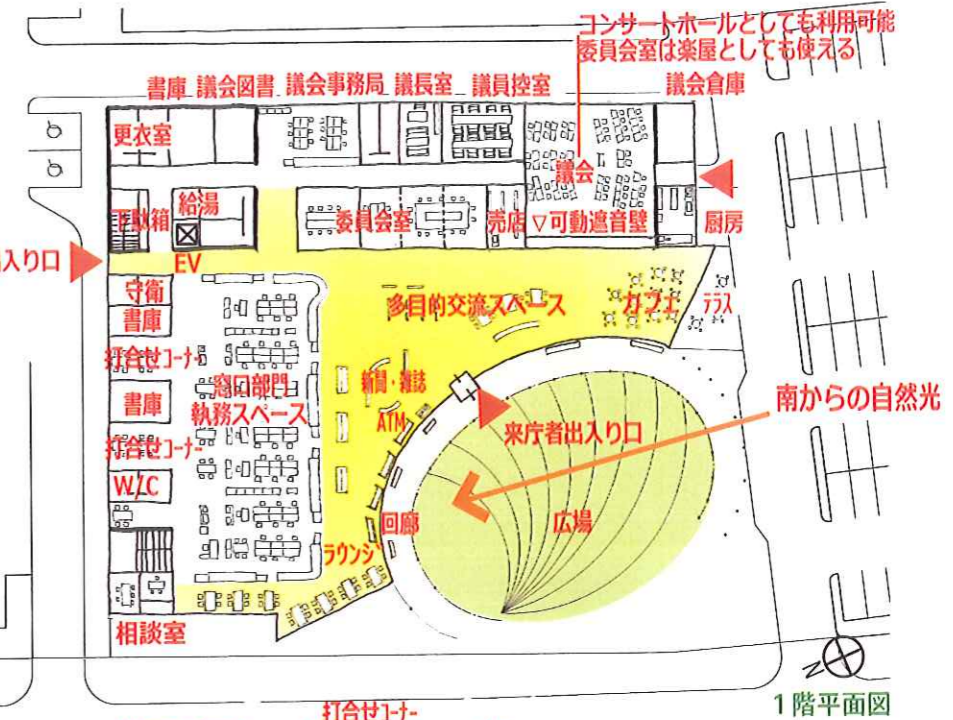
オフィスモジュール

机・椅子などの配置を考えると8Mのグリッドは使いやすく組織の変更や職員の異動に柔軟に対応できます。私達の庁舎経験からややゆとりのある寸法を提案します。木造の柱は機能上不便を与えることはなく、木の優しい肌合いが人々に安らぎと潤いを与えます。

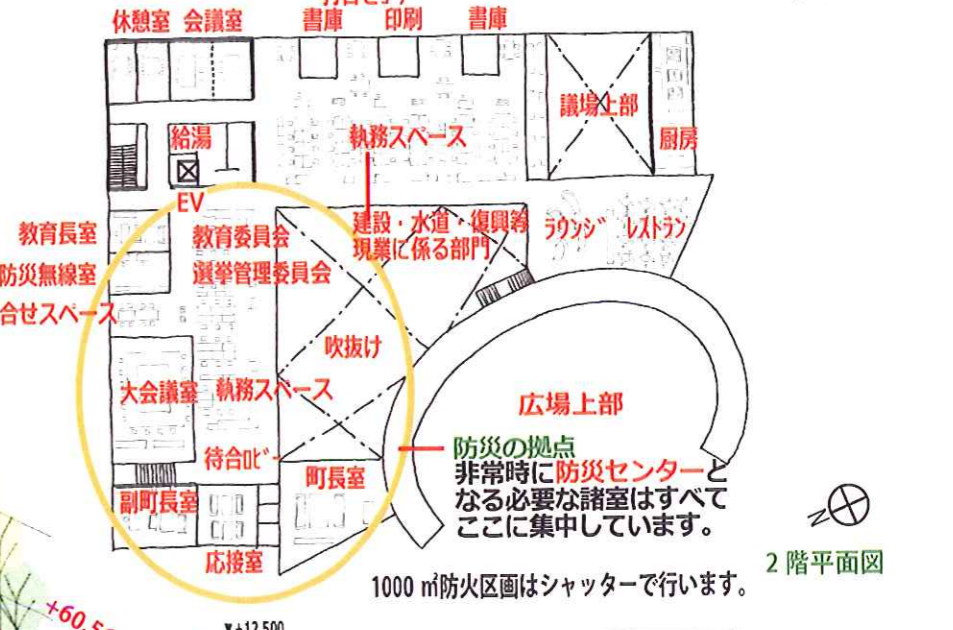


シェアリング・空間の稼働率をあげる

議会ゾーンの議場・委員会室は議会開催時以外は町民に開放され様々なイベント、展示会を可能とします。



1階平面図



2階平面図



断面図

面積表

1階	2,015㎡
2階	1,480㎡
合計	3,495㎡

最終的な必要な諸室の決定、配置、面積配分は役所の部門部門とワークショップを行い決めていきます。

アバローネ（鮑）広場 レベル差を生かした計画



南三陸産鮑



イタリア・シエナ・カンポ広場

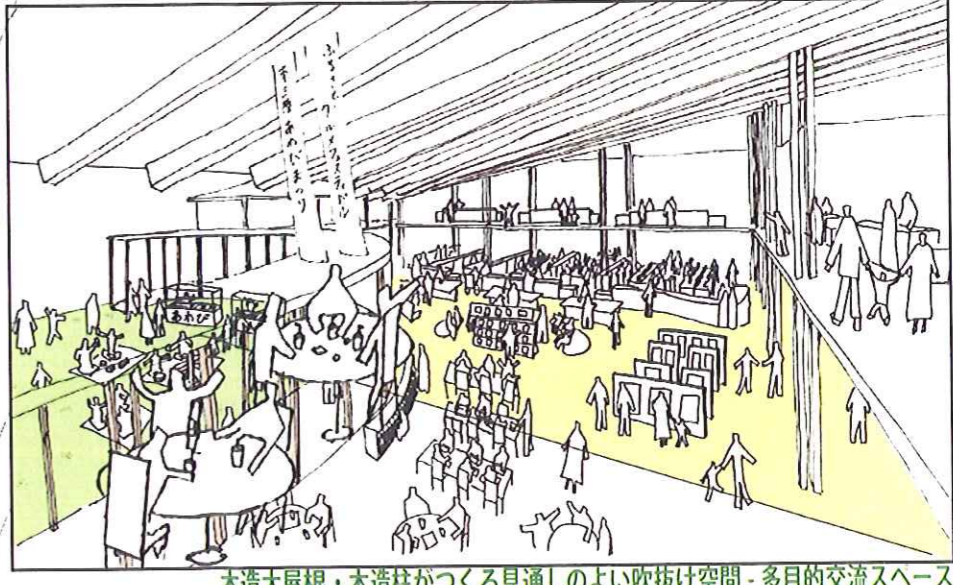
南三陸のアビは天皇陛下に献上された誇りある有名なアビで南三陸のブランドです。アビの殻をモチーフにした広場をデザインします。南三陸はイタリアの町と姉妹都市を結んでいます。南三陸と縁のあるイタリアの広場は歴史があり、広場の空間も完成されています。最も豊かな空間構成を持つといわれるシエナのカンポ広場からヒントを得て鮑の年輪をデザインし、レベル差を生かしながら緩やかな勾配を持った広場を提案します。

南三陸町を全国に発信しよう

1,200人収容の野外コンサート会場になります。周囲の覆われた列柱空間は屋台、模擬店、朝市などにもなります。全国に発信できるような話題づくりを町民が楽しみながら企画することができる広場です。休日はお母さんが子供を連れ安全に遊ばせることができる芝生広場でもあります。



・野外コンサート ・盆踊り ・祭り ・朝市（海の幸・山の幸の販売） ・屋台

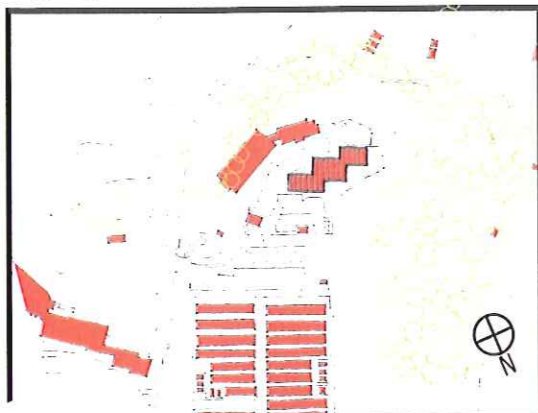


木造大屋根・木造柱がつくる見通しのよい吹抜け空間・多目的交流スペース

心の拠り所・絆・希望・復興のシンボルとしての総合支所

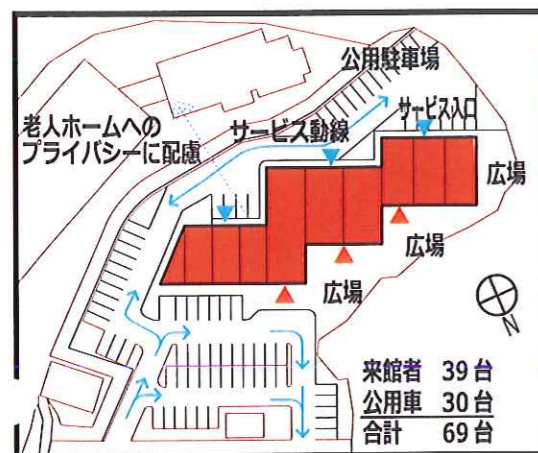
周辺との関係

新しくつくる駐車場は隣接する仮設住居群の駐車場に連続させて作り、建物は不整形な敷地に3つの機能を雁行させながら一体化する配置とします。アプローチ側に正面性を持たせます。



配置・駐車場計画

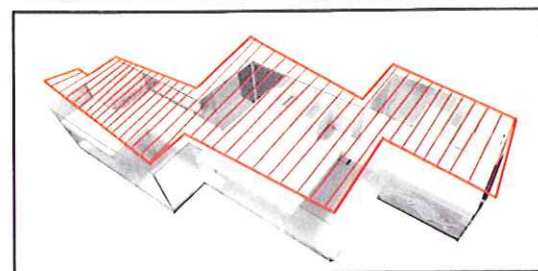
建物の表裏を明確に分けて計画します。それぞれの建物への来館者は広場を通り正面からアプローチします。職員・サービス動線は広場の反対側に設けます。隣接する老人ホームへのプライバシーに配慮します。



歌津コミュニティセンターの積極的な活用

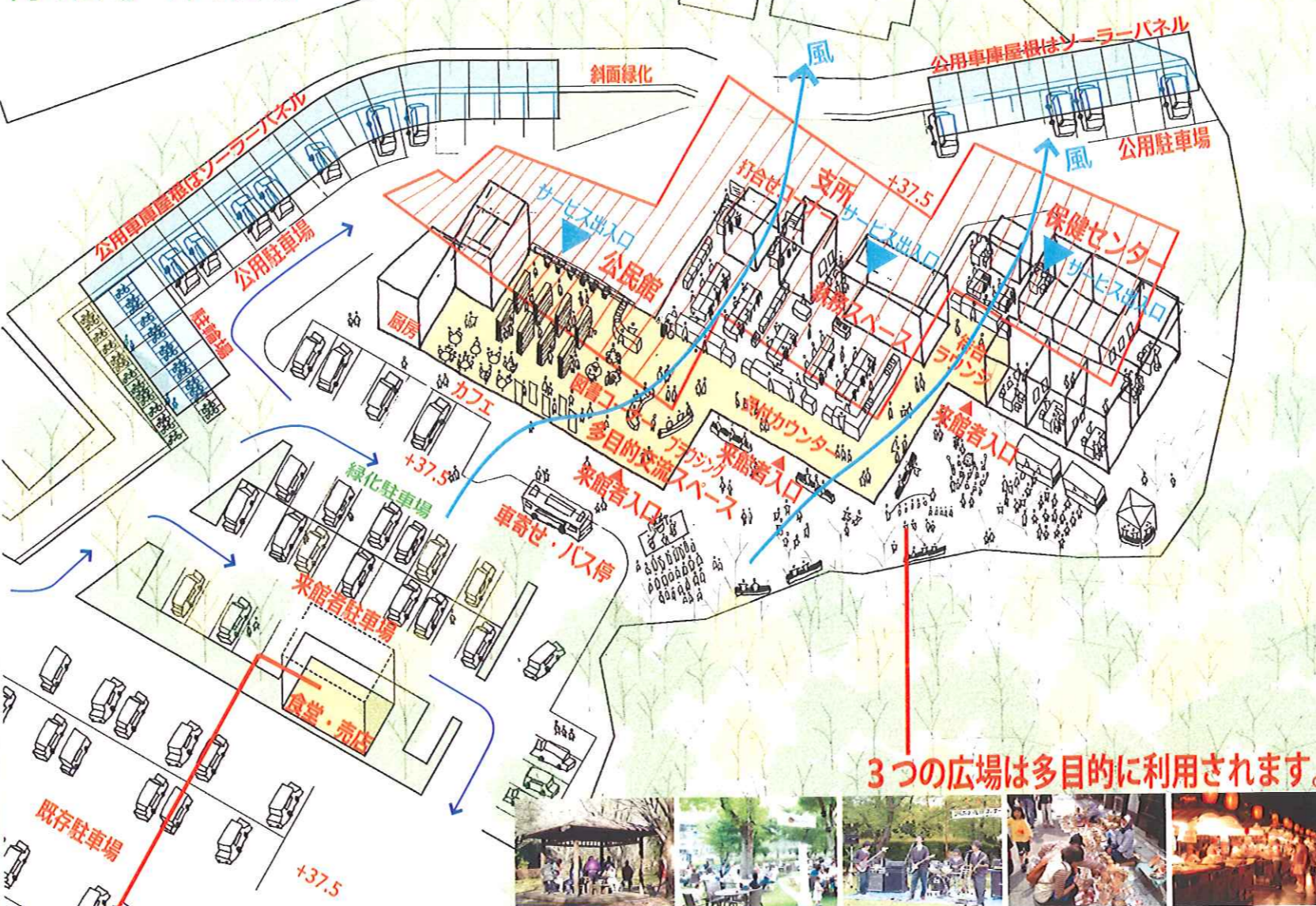
歌津コミュニティセンターは周辺住民も利用できる食堂・売店として提案します。民間と共同で運営します。

吹抜けのある2層構成



全体が見通せる空間を作ります。吹抜けにより上下も緩やかに繋がります。木造のひとつの大屋根の下で円滑なコミュニケーションがうまれます。3つの建物が重なる場所はエントランスやホールで吹き抜けになっています。そこを中心に南からの光や自然通風を確保します。

内の広場・外の広場



3つの広場は多目的に利用されます。



多様な楽しみを生み出す公民館

ダイニング



調理室にガラスで仕切られたダイニング空間を設けます。調理後に気持ちを切替えて食事が可能です。マナー講座を行ったり、家族や友人を招いて食事会等も行うこと可能です。

AVラウンジ



図書機能に併設したAVラウンジを計画します。スクリーンを設け友人と集まり小さい上映会を行ったり、一人でゆっくり映画や音楽を楽しむことが可能です。ふらっと寄って時間を過ごす場所として計画します。

カフェ



多目的交流スペースに面してカフェを計画します。目的がなくてもふらっと寄って外の自然を眺めながら一息つけるスペースとして計画します。雨の日や冬の寒い日にはカフェでバスを待つことも可能です。

ブラウジング



多目的交流スペース
多目的交流スペースには情報コーナーやATMブラウジング、カフェがあり、図書館や支所のロビーと連続し一体化した空間となっています。

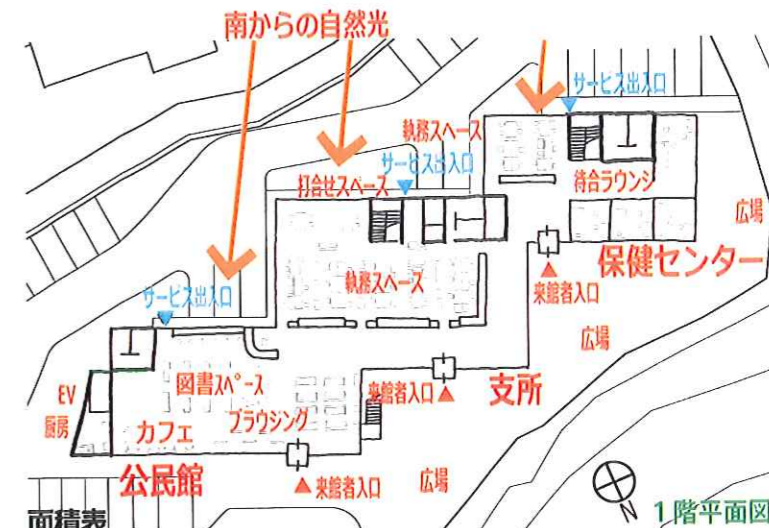
多目的交流スペースに面してブラウジングを配置。役場に立ち寄った際に雑誌や新聞や町の情報などを読むことが可能です。吹き抜けに面した開放的な空間として計画します。

3つの広場

イタリアのサン・ジミニャーノにある3つの連続した大小の広場は一体で使われたりそれぞれが単独に利用されたりするフレキシブルな多目的な広場です。



イタリア サン・ジミニャーノ



面積表

1階	860㎡
2階	640㎡
合計	1,500㎡

最終的な必要な諸室の決定、配置、面積配分は役所の部門部門とワークショップを行い決めていきます。

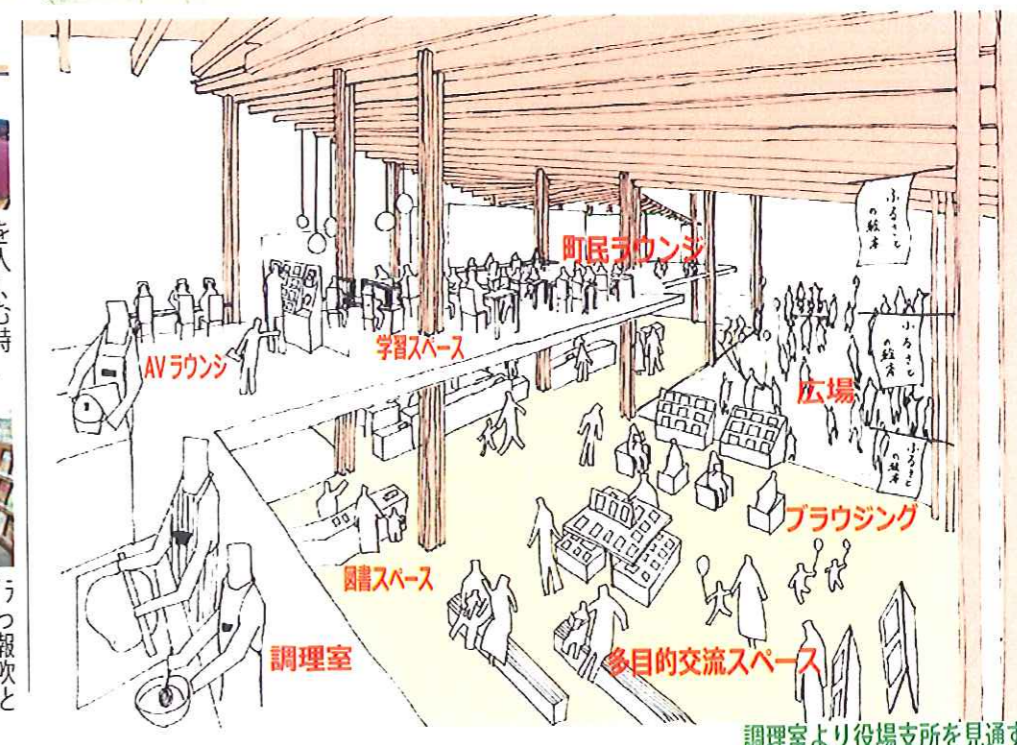


1000㎡防火区画はシャッターで行います。

2階平面図



断面図



調理室より役場支所を見通す